

第123回 令和7年11月13日(木)

「わかりにくい数字。」

ある軍隊で飛行機を作りました。その飛行機の座席の大きさは、軍の隊員全員を計測した身長
の平均で設計したそうです。さて実際に試乗してみたら…座席にピッタリ座れる人は一人もい
なかったそうです。なぜだかわかりますか？平均とは存在が確定している数字ではないからです。

日本人の平均年収が460万円くらいと報道されていますが、そのくらいの年収の人がたくさ
んいるのでしょうか？

実は中央値はもっと低く、経済的に苦しい人がとても多いのが実情で、1億円以上もらって
いる人たちが平均を押し上げているという説もあります。(日本は累進課税によって格差は比較的抑
えられているほうですが。)

テストで平均点がよく示されますが、もしかしたら一部の人たちが平均を下げていて、平均点
自体はあまり良い成績とは言えないのかもしれませんが。それでも人間は平均ということにこだわ
ります。これは平均=普通という感覚で、突出したくないという心の表れかもしれません。

一方で人間は自分の質問の回答は「白か黒か」で答えさせることを好みます。「この作戦は成功
すると思うか」と聞かれて「成功確率40%です。」と答えたらおそらく「お前は成功すると思っ
ているのか、失敗すると思うのか、どちらだ、はっきりしろ」と怒られるのではないでしょう

か。天気でも雨の確率30%と聞くと傘を持っていく人が多いのではないのでしょうか。人間は損を
することに敏感です。

「この手術は95%の人が成功します」と言われるのと「この手術で失敗する人が5%ほど出
ます」と言われるのは感じ方が違いますよね。同じことを言っているのにもかかわらず。

平均であるとか、%であるとかはあまりあてにしていけないということです。命を落とす確
率が0.1%だったとしても、それに的中してしまうこともあるのですから。

それでは大事なことは何か。「自分で決める」ということです。もちろん参考にすることは構
いませんが、最後は平均や確率で揺れるのではなく、白になっても黒になっても後悔しないよう
に、自分でしっかりと決断することです。

数字はあくまで参考です。自分で決めたことに対し、結果を自分で受け止める。結局はそれが
一番納得できる道だと思います。